



本郷台中だより

～学ぶ楽しさを知り、夢や希望を育む学校～

令和5年度第4号

令和5年6月22日

文京区立本郷台中学校

校長 江熊 秀昭

創立25周年 運動会 熱戦を超えた先に

校長 江熊 秀昭

天候が心配されましたが、曇天で時折日差しがあり、気温も過ごしやすい絶好の状況の中で6月10日(土)に大勢の保護者が参観する中、創立25周年運動会が行われました。

100m走では自分の全力に「挑戦」し、最後まで駆け抜ける生徒に先輩後輩の区別なく大きな声援が送られていました。

学級対抗大縄跳びは各グループが練習の成果を存分に発揮し、結果が発表されるまで勝負が分からない「激戦」を繰り広げ、会場を大いに盛り上げました。

今年から復活した学年種目。1年生はいかだ流し、2年生は台風の目、3年生は大ムカデ。作戦を考え、練習の成果を存分に発揮していました。

全員リレーは転倒やバトンミスもありましたが、一人一人のが持てる力を出し尽くそうとする姿勢が伝わってくる走りでした。

創立25周年記念種目の生徒代表と地域関係者・PTA役員・教員チーム対抗玉入れでは、なかなか思うように玉が入らず、苦戦していました。接戦ながら生徒代表チームの勝利！

1年ソーラン節は法被姿も凛々しく元気一杯、2・3年生ダンスは有志の生徒の考えたダンスを指先や表情まで意識して、今までの練習の成果を存分に発揮していました。

学級選抜リレーは大きな声援を受けながら「熱戦」を繰り広げ、3年生が最後まで勝負を諦めない姿を示し、運動会を締めくくりました。

勝負に拘り、落胆の表情が隠せない人もいました。勝負だけ見ていると必ず敗者が生じます。得意不得意に関わらず、自分なりの全力を出し切り、充実感を得て、観戦を楽しみ、運動が好きでない人が「身体を動かすのも悪くないな」「ダンスが上手い人って凄いな」と思えたのでしょうか？ 大縄跳びで1回も跳べないグループがありましたが、個人を責めるでもなく、声援を送り、笑顔で迎えていた学級。そこに「超熱戦」の本質がありました。

学級や学年に囚われることなく応援をする姿勢が本郷台中生の素晴らしさです。運動会を通して学んだ全力を尽くす、思いやりや他者を認める姿勢をこれからの生活に生かすことを期待します。

参観に協力してくださった保護者、受付をお手伝いいただいたPTA役員、ご来賓の皆様にご感謝申し上げます。今後もご協力をお願いいたします。

実行委員の感想

- ・ 去年より練習時間が短くなり、種目が増えたけど、行動を早めるなど工夫した。
- ・ コロナの影響がなくなって、できることが増えて楽しかった。
- ・ 新しいことに挑戦できたので、本番は声援が増え、団結することができた。
- ・ 指示が通らず、難しかった。だんだんとみんながまとまって楽しそうだった。
- ・ できない人でも頑張ってくれた。運動が苦手な人が、好きになってくれればいい。

実行委員長の感想

朝練習の時間が減って学年種目が増えたため、校長先生と3年生の実行委員で話し合った。少し練習時間を増やすことができた。また、時間を効率的に使うことの大切さや運動が苦手な人への配慮が必要なことも理解できた。勝敗も大事でしたが、みんなが楽しめる運動会ができるように心掛けた。協議の直後は、勝敗に一喜一憂したが、負けを誰かの責任にすることなく、励まし合い、笑顔で健闘を讃えることができた。

時間を無駄にせず、全力で取り組めば、必ず得るものはある。それを下級生は肝に銘じて、来年も本郷台中らしい運動会にして欲しい。

成績

	総合	全員リレー	大縄跳び	選抜リレー	学年種目
1年	B組	B組	A組	B組	B組
2年	A組	A組	A組	A組	B組
3年	C組	A組	A組	C組	C組

